

春秋会

ニュースレター

2023.5



今月の予定

・ 5/17(水) 12:00-13:00

幹事会

・ 5/17(水) 18:00

離婚研修～フロントランナーに学ぶ 別居から財産分与まで～（研修委員会・若手会）

・ 5/29(月) 18:00-22:00

謎解きゲームイベント
（親睦委員会・若手会）

2022 年度役員退任慰労会

広瀬元太郎（60期）

2023年4月24日（月）18時30分より、ANA クラウンプラザホテル大阪にて役員退任慰労会が盛大に執り行われました。

コロナ禍でこの種の行事が延期になったため、以前はしょっちゅう行われていたANAクラウンプラザでの行事もほんとに久しぶりという思いです。さぞ、ホテル業界は大変だったことでしょう。

まずは岩本新幹事長が開会挨拶をおこないます。



↓天井の高い部屋です！



福田健次前大阪弁護士会会長のスピーチと続きます。50回も東京大阪間を
行き来したそうです。新幹線の車窓暗記してしまいますね。

意見対立がある委員会間の調整、ほんとうに大変だったそうです。



久保井一匡会員による乾杯の発声



途中、大阪弁護士会会長経験者の皆様か
らの挨拶を挟み、和やかなムードで場が進
んでいきます。

黒田愛前副会長、飯島奈絵前幹事長のあいさつと続き



最後のしめは、高江俊名現副会長。今年の抱負を熱く語っていただきました。



司会のお二人、お疲れ様でした。



- ・松尾 洋輔 (59 期、委員長)
- ・溝上 絢子 (57 期、担当副幹事長)
- ・西原 和彦 (55 期)
- ・堀川 智子 (57 期)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・広瀬 元太郎 (60 期)
- ・柳 勝久 (61 期)
- ・山田 寛子 (65 期)
- ・金星 姫 (66 期)
- ・木場 晶子 (67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・板崎 遼 (67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・高一 成 (69 期)
- ・根本 俊太郎 (70 期)
- ・足立 敦史 (71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平 (71 期)
- ・オ木 晴幹 (72 期)
- ・中岡 さつき (72 期)
- ・中西 教子 (72 期)
- ・久井 大輝 (73 期)
- ・山本 こずえ (73 期)
- ・佐々木 崇人 (74 期)
- ・神澤 鈴子 (74 期)
- ・秦 尚輝 (74 期)



カート大会

浦 寛幸 (59期)

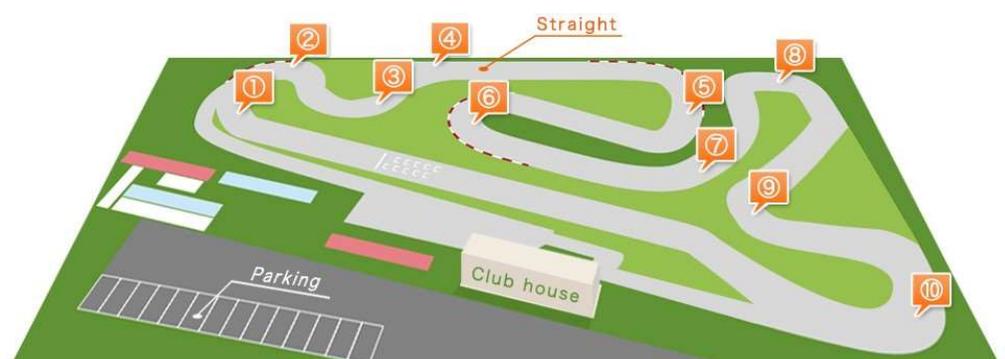
令和5年3月4日、ISK 大阪舞洲店にて、春秋会若手会・親睦委員会合同のカート企画が開催されました。私が記憶する限りでは、春秋会のカート企画は今回で3回目の開催です。前回、財布携帯をロッカーに忘れてしまい、サーキットに取りに帰るにしてもお金が無くて借りて取りに帰ったという苦い思い出のあるサーキットです。

参加者は10名くらい、お子さんや女性の方もきておりました。

天気はこんな感じでレース日和!



横から撮影しても、コース全体がわかりませんので、サーキットのHPから拝借したものがこちら。



さて、企画の方は、まずは練習走行で、5名1組で、走り出します。結構、変なところに力が入ってしまい、毎度筋肉痛になってしまいます。練習走行で、まあまあお腹いっぱい、レース必要ないような気もしつつ。。

せっかくの、カート企画なんだからということで、練習走行のトップタイム上位5名で10週のレースをすることになりました。上位5名から漏れた方々は、お子さん用のカート場で遊んだり、練習走行で疲れたのか休憩したりと、まったり過ごしていました。

さて、いきなりの決勝戦。練習走行のタイムの遅い順に、スターティンググリッドにつきます。

スターティンググリッドは、ポールポジションが富井さんで、以下、堀さん、浦、佐伯さん、富井さんの友人の順です。

スタート直後、私が強引に、富井さんのマシンにヒットさせながら（これ、後で思ったらペナルティじゃないかしら）、3コーナーでトップに出て、その後、佐伯さんが2位に躍り出たようです。

実際は、佐伯さんと富井さんの友人の方がタイムは速かったのですが、最初のリードを守り切り、大人げなく私が優勝させて頂きました。まあ本当のレースなら、私の反則もあり、また佐伯さんと富井さんの友人の方が速かったので、どちらかが優勝でしょうね。

そして、マシンをヒットさせた富井さんにすいませんでした。

表彰式では、ちゃんと1位、2位、3位のトロフィーまで用意されていました。でも、せっかくなので、表彰式の後には、皆さんお子さんに差し上げましたね。ちなみに、宮下さんから、シャンパンファイト用にコーラを渡されましたが、いや、こんなのでやったら、べたべたになるやん!と思って、もちろん、拒否しました。

カート体験されたことの無い方も、是非、機会がありましたらご参加ください。きっと楽しい思い出になると思います。

追伸

お昼はホテル・ロジ舞洲のハーフバイキングランチがオススメです。猫もいました(ココ重要)。





我が家のペット紹介

板崎 遼(67期)

我が家には一風変わったペットとして、ウーパールーパーがいる。

当時3歳の息子が「ウーパールーパーかわいいから、お母さんの誕生日プレゼントにしよう」と言ひだし、あれよあれよという間に我が家にお迎えすることとなった。

最初は黒、白それぞれ1匹ずつ、色にちなんで「クロス」と「シラス」と名付けた。残念ながらクロスは少し体の大きいシラスに齧られ亡くなってしまったので、新たに白1匹をお迎えした。2匹目の白、2匹目のシラスということで「シラス次郎」(略して「次郎」)と名付けた。なんだか日本の独立のために頑張ってくれそうである。



ウーパールーパーは両生類だが、多くの個体は変態することなく幼生のまま成熟する。ときどき成体になる個体もいるが、正直気持ち悪い。陸に上がると変態するので、ウーパールーパーを飼育するときは、水位を高くするなどして変態しないよう気を付ける必要がある。

ウーパールーパーは驚くほど成長が早い。お迎えしたときには数 cm 程でマスコットのような可愛さだったが、エサをしっかりと与えればものの3か月で15~20cm になる。

マスコットのような可愛さは相変わらずであるが、大きくなると顔つきにも個性が出てくる。シラスと次郎は同じ品種だが顔つきは全然違う(と飼い主は思っている。)



こっちがシラス



こっちが次郎

ウーパールーパーへのエサやりは、楽しみのひとつである。エサを与えるといっても、市販の「ウーパールーパーのエサ」を水槽にばらまいて終わりではない。ウーパールーパーは極端に視力が悪いのに、偏食のようである。

シラスも次郎も、人工飼料を一切食べない。水槽の底に落ちたエサも食べない。冷凍のアカムシを解凍し、ピンセットを使って口の前に持って行ってよう



やく食べる。ピンセットでうまく掴めず、頭の上にエサを落としてしまうこともあるが、そんなエサは絶対に食べようとしない。目の前に持っていかないと絶対に食べない。人間の子供よりも手がかかる。お前ら野生でどうやって食ってるんや、と聞きたくなるが、手のかかる子ほどかわいい。両生類で代謝も低いため、めんどうな時はエサやりをさぼっても、1週間くらいは絶食しても余裕らしい。

餌やりの図

ある程度大きくなってきたシラスと次郎は、生餌も食べる。大好物はメダカである。エサ用メダカを10匹ほど水槽に入れておくと、一晩で全部食べてしまう。アカムシのときとはえらい違いである。メダカを食べるときだけ、ものすごいスピードで体を動かすのが面白く、ついつい見入ってしまう。アカムシをあげるときも、自分から食べに来てほしいものである。

生餌を食べさせるとなると、問題となるのは生餌の調達である。エサ用メダカは大量に買えば買うほどボリュームティスカウントが効く。自宅で繁殖させることができればエサ代はタダである。そんなことに目がくらんで、ベランダにメダカ水槽を作ってしまった。

よくよく考えれば、1匹20円のメダカを100匹単位で買うと単価が12円になるからといって、5000円もかけてメダカ水槽を作っていれば投下費用

を回収するのにどれくらいかかるのか検討もつかないところだが、気にしないようにする。



中ではエサ用メダカが150匹元気そうに泳いでいる。週末に息子とメダカ掬い(掬われたメダカは可哀そうであるがウーパールーパーの水槽行きである。)をするのが日課になった。

メダカを繁殖させるには、もう1つ2つ水槽があるといらしい。息子の一言からウーパールーパーの飼育をはじめた我が家が、メダカ養殖場のようになる日も近い。



一月一島 国内航路全線制覇の道

広瀬元太郎(60期)

今まで不定期に鉄道の記事を書いてきた。5年ほど前の会報にも書いたが(だれも覚えてないと思われる)、日本の鉄道を乗り終え、次の目標を種々考えていた。ようやく目標が定まってきた。鉄道全線乗車に30年ほどかかったが、残りの人生30年弱で鉄道では行けなかった場所を埋めていくことにした。

鉄道でいけない場所の代表は「島」である。駅のある島が皆無ではない。例えば、近鉄の賢島は一応島だし、関西空港駅も島である。しかし、これらは一般的なイメージの島ではない。むしろ、鉄道の駅が存在することにより、「島でない」感がでてしまっている。つまり、島は鉄道の対極にある概念であると勝手に考えた。そして、島に不可欠な交通機関は船である。島国日本の全航路を踏破してみようではないか。

考えてみると、筆者は愛媛県の瀬戸内海に面した小都市の出身であり、島と船には事欠かない地理的環境にいたはずである。歴史的にも、中世において瀬戸内海を支配した村上海賊の本拠地はまさに島であり、船を操っていた。しかし、筆者は鉄道趣味にはまってしまう、鉄道と対極の位置にある島と船をないがしろにしてしまった。

ぼちぼち能書きに飽きてきたと思うので、まず、第1島目の話からスタートだ。

家島・坊勢島

兵庫県には、淡路島という巨大島が存在するが、有人島はそれほど多くない(ポートアイランド等の埋め立て系は除く)。

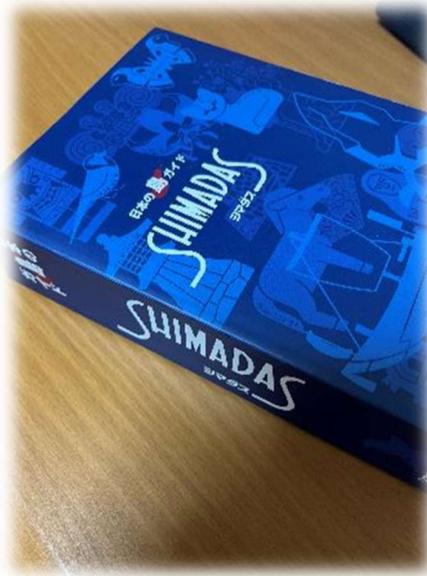
(国土交通省国土地理院 地理院地図)



少ない天然の有人島の
一つに家島諸島がある。
場所は姫路の沖合。家島
諸島は多くの島で構成さ
れているが、有人島は、家
島、坊勢島、男鹿島、西島
の四島である。人口はお
よそ4900人。うち2700

人が家島、2150人が坊勢島に住んでいる。残りの2島は極端に人口が少ない。

ところで、なぜこのようにマニアックな数字が出てくるかというと、島マニアのバイブルと呼ばれる「シマダス」というマニアックな本を購入したからである。1700頁からなる小六法のようなこの本は、小六法より高い4840円であるが、島業界に参入させていただくに際し、購入させていただいた。



今回は、家島と坊勢島に行くこととする。地図を見るとわかるように、姫路から見て、手前に家島があり、奥に坊勢島がある。姫路港からは、家島と坊勢島に直行便があるが、さらに、家島と坊勢島を結ぶローカル航路もあることが発見された。

このような若干複雑なルートがあると、島マニアに入門したての鉄道マニアとしては、緻密なスケジュールを立てて、アイランドホッピングをしたくなる。

姫路港は、姫路の中心部から離れていて、最寄駅は山陽電鉄の飾磨駅である。明石で JR から山陽電鉄に乗り換え、飾磨で降りる。さらにそこから25分くらい歩いたところに姫路港がある。JR の姫路からバスに乗れば、全く歩かずに港に到達できるが、久しぶりに山陽電鉄に乗ってみたかったので、このようなルートをとった。姫路港は、家島諸島の玄関口であるとともに小豆島行の航路も出ている。この航路も乗ったことがないので、近いうちに来ないといけない。

(国土交通省国土地理院 地理院地図)



まずは、家島行の高速船「高速いえしま」にのる。13時40分発。もっと早く行動すればよかったのだが、つい寝坊してしまった。家島の真浦港には約30分で着く。姫路港と真浦港の距離は17キロである。鉄道業界に長くいたので、船の速度感についていけないが、入港時出港時の低速時を入れての時速3

4キロはかなり早いと思われる。

そうそう、船業界に参入するにあたり、単位で習熟しておかないといけないものがある。マイルとノットである。船舶及び航空業界においては、マイル(ノティカルマイル)が距離の基本である。1マイルは1852m、緯度1度の60分の1(1分)に当たる距離である。イメージとしては、2キロの1割引きか。そして、1ノットは時速1マイルのことである。そうすると、この船の平均速度は約20ノットといえる。

そういえば、飛行機の距離もマイルである(乗るとマイルがもらえる)。パイロットとかクルーとかキャプテンとか、船と飛行機の用語は共通している。もちろん、船が先輩である。



高速いえしまは、播磨灘を南西に向かって航行する。窓からは、姫路と相生の間の海岸線が見えている。家島の真浦港に着く。家島の北側は大きな入り江になっており、その一番奥が港である。この入り江には、建造中の船(かなりおおきい)が何隻も停泊している。この家島

は造船が盛んな島である。島というと過疎化が進み寂れているイメージがあるが(実際そのような島も多い)、この家島諸島は別だ。造船業、漁業、採石業でかなりな所得をたたき出している。港から見ても、高層(といっても4,5階)の建物、新築の住戸がかなり目に付く。

次に向かう島は坊勢島である。坊勢島は、家島の南にあり、家島から坊勢島に向かう船は、家島の南岸の網手港から出ている。真浦港は家島の北側にあるから、島を横断していかなければならない。網手港から坊勢島に行く次の便は15時50分出航なので、急ぐことは無い。山を越えて30分。網手港に着く。港

といっても小さな小屋と岸壁があるだけの船着き場である。トイレもない。港にはトイレがあると高をくくっていた同行の妻が騒いでいる。



昼下がりの無人の岸壁で船を待つのはいい。大阪から2時間で来れる場所ながら、ほんとに遠くに来た気がする。ぼんやり過ごすうちに、坊勢島行の船がやってきた。姫路からの高速艇よりはるかに小さな船で、漁船に便乗する感じである。デッキには3人座ると満席

になる椅子があり、立っても5人くらいで満員になりそうである。家島と坊勢島の中の狭い海峡を渡って、坊勢島の坊勢漁港に着く。

この坊勢島も豊かな島である。「坊勢島 年収」で検索すると1000万とか豪邸とかといった記事がわらわら出てくる。養殖業で成功しているらしい。

瀬戸内海の島によくある地形で、島には平地はほとんどなく、島の頂上まで家が立ち並んでいる。その間を幅1メートルほどの細道が迷路のようにつながっている。筆者は、迷路状の道をさまよい歩くことが大好きである。さまよった挙句に元の場所や思いがけない場所に出た時の快感は何物にも代えがたい。

また、島のこのような小径には、必ず猫がいて、道とは無関係に移動している。途中で郵便局もある。あまりの急斜面の密集した地区に立っているため、郵便局の前の道が郵便局の屋根と同じ高さで、道から見ると穴の中に郵便局があるように見える。細い道を上がっていくと、10分ほどで頂上にでる。頂上に近いところには小学校があり、見下ろすと反対側の港まで、家がびっしりと建っている。



遠くには、巨大島である淡路島が長々と横たわっており、その間を巨大な貨物船が横切っていく。淡路島までの距離は35キロ、今日は天気がいいのでよく見える。

坊勢島からは、姫路港までの直通の高速艇があるので、家島に戻らなくてもよい。大阪から2時間

間。おそらく、釣りとかをする読者はこの島を訪問したことがあるかもしれないが、釣りをしない読者も、ぜひ訪問し、迷路で迷ってほしい。



執行部だより

広報担当副幹事長 溝上絢子（57期）

今月より、執行部がリレー形式で執行部だよりをお送りいたします。

今年度、広報担当副幹事長に就任しました溝上絢子です。なにわ共同法律事務所に所属しております。プライベートでは小学生男子2人の母で、もともとインドアでお酒を飲むのが好きなのですが、最近は家族とともにキャンプ、城めぐり、登山、魚釣りと共に引きずり出されてじわじわと来ている体力低下に抗っております。

春秋会の副幹事長は10年ほど前に会計担当で一度経験しておりますが、当時とは執行部の作業内容ややり方が随分変わっていて驚いています。

最も変わったと感じるのは会議のweb化です。これはコロナ禍において浸透し、昨年度春秋会会則の改正もされました。web化に伴い、どこにいても会議に出席することが可能になり、幹事会の出席人数も格段に増えました。執行部としては出席して下さった皆様にご不便をおかけしないよう、web利用の会議も円滑に進めるべく、昨年度執行部のノウハウを伝授してもらっているところです。

担当する広報委員会では、70期台の会員が積極的に参加してくださっています。委員会メンバーは、昨年度制度化された委員会等活性化費を活用して会議後の懇親会に参加し、お互いに春秋会のことのみならず事件関係の相談などもして、つながりを大事にされています。今年度執行部の会務方針スローガンは「ささえあい つながり広がる 春秋会」で、様々な場面でこのようなつながりを広げていただけるよう、私なりに知恵を絞っていけたらと思います。

岩本執行部での第一回幹事会も4月18日に開催されました。5月に新型コロナの感染症法の位置づけが「5類」になることを受け、各委員会においてリアルイベントを復活させる対応・検討をされているようで、「つながり」を広げられる場面が増えそうです。

今年度、引き続きどうぞよろしく願いたします。



ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます（もちろん、一定の審査はさせていただきますが…）

広報委員会委員長 松尾洋輔 y-matsuo@dojima.gr.jp